

1.病棟の具体的な目標と評価

【診療科ブース】

1)安全で質の高い看護を提供する

ナーシングスキルを活用して、緊急処置に関する内容を毎月1項目、対象者全員が視聴できた。救急外来などで実践し技術の向上に繋げた。

2)病院経営に参画する

排尿自立支援加算は、排尿自立支援対象者510件に介入でき、前年度の2.15倍の増加となった。

3)患者の視点に立った医療安全を推進する

エスカレーターに関する転倒で3b事例が2件発生した。ポスター掲示や杖歩行の患者に声をかけるなど、外来全体で取り組むこととなった。

4)専門職としての能力開発に努める

ラダー研修に計画的に参加し、個々のスキルアップと共に、実践では人材育成や業務改善でリーダーシップを発揮できるようになった。

5)看護の先輩として学生指導に携わる

産科の学生担当者がクリニカルコーチ研修に参加し、胎児心拍モニターについての看護技術指導案を立案し実践し、学生のレディネスに合わせて、理解度に沿った指導をすることができた。

6)活気のある職場、元気の出る職場づくりを推進する

PNS総括リーダーを配置し、診療ブースとセンター部門を定期的にラウンドし、リシャッフル前後の診察や検査の状況を把握しタイムリーに対応できるようになった。コロナ禍において、感染の流行状況の影響を受け、スタッフの急な休みが出る中で診療を継続できたのは、PNS定着の成果であった。

【処置センター・化学療法センター・内視鏡センター】

1)安全で質の高い看護を提供する

内視鏡補完要員育成プログラムの作成ができ、内視鏡実践可能スタッフ2名の育成と継続性のある育成環境を整えられた。化学療法センターに通院する患者のセルフケア支援について、院内看護研究発表会で発表できた。研究成果は次年度学会発表し、日々の実践及び継続看護の強化に繋げる。

2)病院経営に参画する

化学療法センターの治療開始を10時~11時台に51%前倒したことで、9時~10時の処置センターの採血業務を担うことができた。内視鏡センターは、補完要員育成で休憩未取得を(600→290分)52%削減した。内視鏡センター超過勤務(センター内比68.6%)対策が今後の課題である。

3)患者の視点に立った医療安全を推進する

センター内発生インシデントの情報共有と5日以内の取り組み開始で、インシデント発生率を20%削減できた。転倒は、次年度センター内発生0件を目指し対策を立て取り組む。

4)専門職としての能力開発に努める

ラダー研修への計画的参加と補完要員育成の体制作りは、技術習得したいと自薦できるスタッフの育成、キャリアアップの動機づけにつながった。

5)活気のある職場・元気の出る職場づくりの推進

リフレッシュ休暇・年休7日取得を100%達成した。

表 1 外来患者数

	延べ患者数(人)	1日平均患者数(人)	1日平均点数	初診率(%)
令和元年度	184,140	754.7	3,202.0	12.7
令和2年度	168,279	692.5	3,635.3	11.0
令和3年度	169,301	693.9	3,807.9	11.0

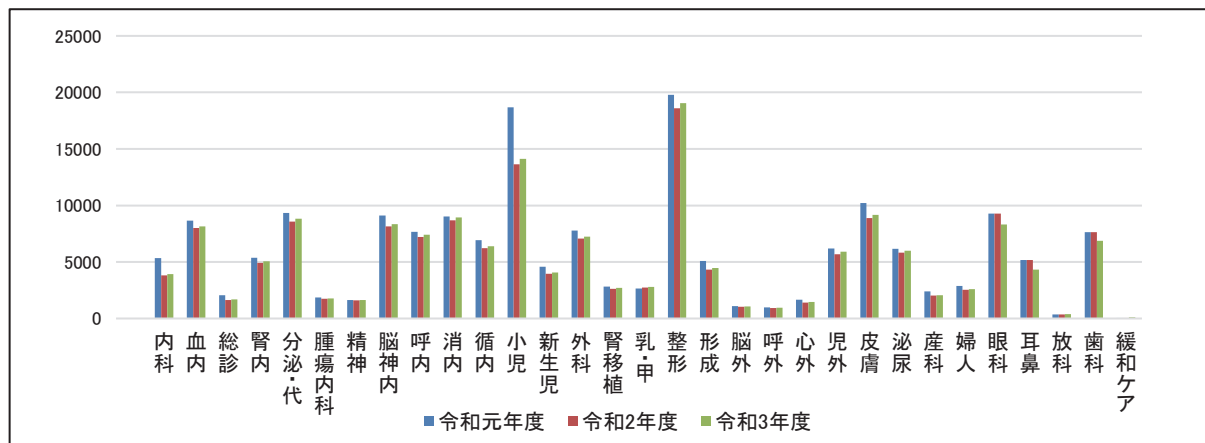


図 1. 診療科別受診件数

2. 看護統計

表 2 内視鏡件数等

	上部内視鏡	下部内視鏡	気管支鏡	ERCP	EIS	カプセル内視鏡	ダブルバルーン
令和元年度	2,755	1,453	354	226	1	30	12
令和2年度	2,615	1,358	376	255	4	35	17
令和3年度	2,688	1,393	356	227	5	50	29

表 3 外来手術件数

整形外科	形成外科	眼科	外科血管外科	皮膚科	小児外科
47	148	171	15	163	5

表 4 診療科別外来化学療法件数

	血内	呼内	消内	乳・甲	泌尿	腫瘍内科	耳鼻	婦人	消外科	腎内科	整形	皮膚	脳外科	小児科	脳神経内科	循環器
令和元年度	1,907	749	627	197	182	182	39	14	0	1	1	5	8	1	2	1
令和2年度	2,019	719	842	253	85	116	36	7	0	0	0	0	22	2	7	0
令和3年度	1,975	532	1048	390	122	43	76	1	0	1	0	0	3	1	3	0

表 5 (外来)排尿自立指導

	令和2年度	令和3年度
指導実施患者数	237	510
指導加算料(点数)	47,400	102,000